



## レビー小体型認知症

メディカルケアコート・クリニック  
小 阪 憲 司

### 【略 歴】

(学歴・職歴)

昭和40年 金沢大学医学部卒業  
昭和41年 名古屋大学医学部精神  
医学教室(副手・助手・講師)  
昭和50年 東京都精神医学総合研  
究所副参事研究員  
昭和52~53年 ドイツ Max-  
Planck 精神医学研究所客員研究員  
平成3年 横浜市立大学医学部精神  
医学講座教授  
平成8年 横浜市立大学医学部附属  
浦舟病院院長を兼務  
平成15年 横浜市立大学医学部名  
誉教授, 福祉村病院院長  
平成17年 聖マリアンナ医学研究  
所所長  
平成19年 横浜ほうゆう病院院長  
平成23年5月より現職

(学会活動)

日本老年精神医学会・日本神経精神  
医学会・日本神経病理学会・日本認  
知症学会の名誉会員, レビー小体型  
認知症研究会・若年認知症研究会の  
代表世話人

(主な著書)

- 1) ウェルニッケ・コルサコフ脳  
症, 星和書店
- 2) 老化性痴呆の臨床, 金剛出版
- 3) 認知症はここまで治る・防げ  
る, 主婦と生活社
- 4) トーク認知症, 医学書院
- 5) レビー小体型認知症の臨床,  
医学書院
- 6) 知っていますか? レビー小体  
型認知症, メディカ出版
- 7) レビー小体型認知症の介護が  
わかるガイドブック, メディカ出  
版
- 8) 「パーキンソン病」「レビー小  
体型認知症」がわかる QA ブック,  
メディカ出版
- 9) 認知症の防ぎ方と介護のコツ,  
角川マーケティング

レビー小体型認知症(DLB)は, 1976年以降の演者らの研究報  
告を基に1996年の国際ワークショップの報告で命名され, その臨  
床・病理診断基準が発表された比較的新しい疾患概念である。

現在ではDLBは患者数が多く, アルツハイマー型認知症(ATD)  
に次いで二番目に多く, ATD, 血管性認知症とともに三大認知症と  
呼ばれている。

DLBは初期には認知症が目立たず, 種々のBPSDが最も目立つ  
認知症であり, ことに幻覚・妄想・認知の変動・抑うつ・不安・レ  
ム睡眠行動障害などの精神症状が起こりやすく, しかもパーキンソ  
ン症状や種々の自律神経症状もしばしば出現するため, 本人・家族  
のQOLが早期から障害されやすい。したがって, 早期に診断し,  
早期に介入・治療することが特に重視される。ところが, DLBにつ  
いてはまだ十分に知られていないこともあって, アルツハイマー型  
認知症, うつ病, 老年期精神病, 統合失調症などと誤診されてい  
ることが多い。また, パーキンソン病と診断されているにもかかわらず,  
パーキンソン病とDLBの関係を知らず, 特有な幻視や認知症  
が出現しても, DLBを考慮することなく, 適切な治療が行われるこ  
となく, また抗精神病薬などへの過敏性もあるにもかかわらず, 間  
違った治療がなされ, 取り返しのつかない状態になることも少なく  
ない。また, 介護がむずかしく介護者は大変な思いをするために,  
介護指導も重要である。

今回は, DLBの歴史を簡単に紹介した後, DLBの診断・治療・  
介護について説明し, DLBの早期発見のポイントについても解説す  
る。

### 参 考 書

- 1) 小阪憲司: 知っていますか? レビー小体型認知症, メディカ出版
- 2) 小阪憲司ほか: レビー小体型認知症の介護がわかるガイドブック, メディカ出  
版
- 3) 小阪憲司ほか: 「パーキンソン病」「レビー小体型認知症」がわかるQAブッ  
ク, メディカ出版
- 4) 小阪憲司ほか: レビー小体型認知症の臨床, 医学書院